

平成 21 年 6 月 15 日現在

研究種目：基盤研究(B)
 研究期間：2006～2008
 課題番号：18310159
 研究課題名（和文）ローカル・センシティブな「開発とジェンダー」研究の構築をめざして
 研究課題名（英文）Renovating “Gender and Development” with Local Sensitivity
 研究代表者
 熊谷 圭知（KUMAGAI KEICHI）
 お茶の水女子大学・大学院人間文化創成科学研究科・教授
 研究者番号：80153344

研究成果の概要：本研究の目的は、普遍主義・西欧中心主義に偏りがちな「ジェンダーと開発」研究の視点と方法を、フィールドワークに根差すローカルの文脈から再構築することだった。3年間の研究によって、(1)グローバル化する経済と言説の力を背景に、既存のローカルなジェンダー規範・関係が揺らぐと同時に再編成されており、(2)ジェンダー課題の解決のために、インター・ローカルな視点や方法の構築が重要となる中で、(3)地域研究と開発実践の協働の必要性が増大していることが明らかにされた。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	6,600,000	1,980,000	8,580,000
2007年度	3,800,000	1,140,000	4,940,000
2008年度	2,200,000	660,000	2,860,000
年度			
年度			
総計	12,600,000	3,780,000	16,380,000

研究分野：地域研究

科研費の分科・細目：地域研究

キーワード：地域協力、ジェンダー、開発

1. 研究開始当初の背景

「開発と女性」(WID)、「ジェンダーと開発」(GAD)は、1970年代以降の国際開発の潮流の中で重要な位置を占めてきた。しかし一方で、WIDやGADの制度化は、その理念の脱政治化をもたらすとともに、その普遍的な枠組みと第三世界のローカルな現実との乖離が問題にされるに至った。一方、地域研究においては、グローバル化の中で、これまで依拠してきた固定的な領域や、地域住民の同質性といった仮構が問い直される状況が生じてきていた。

2. 研究の目的

こうした状況をふまえて、本研究がめざしたのは、「ジェンダーと開発」研究の枠組みを、フィールドワークに根差す地域研究の視点から脱構築するとともに、逆に「開発とジェンダー」の視点から、これまでの地域研究の視点を脱構築することだった。

「開発」は、グローバル・ナショナルな価値・権力からのローカルな構造と主体への働きかけと捉えることができる。女性は、一方では「伝統的」ジェンダー規範を守る存在であることを強いられ、他方では「開発」を契機に行為体として新たな主体形成を行なう。

こうした新たな地域構築の契機を、ローカルな文脈に照らし合わせて、動的に把握することが、「ローカル・センシティブ」な「開発とジェンダー」の要件である。

3. 研究の方法

研究メンバーには、ジェンダー視点をもって地域研究に取り組む研究者（地理学・文化人類学・歴史学・開発学など専門分野は多彩）が参加し、それぞれが、自らのフィールドで、上記の視点に立った研究を進めるとともに、その成果を、研究会で共有する形をとった。

2006～08年度の各年度に、3回ずつの共同研究会を合宿形式を含めて実施し、密度の濃い議論を共有した。

2007年1月には、お茶の水女子大学の21世紀COE研究「ジェンダー研究のフロンティア」と共催で、国際ワークショップ(Beyond the Difference: Repositioning Gender and Development in Asian and the Pacific Context)を開催した。この分野を主導する海外の研究者をゲストスピーカーとして招聘するとともに、本科研の分担者・協力者の多くが報告者・座長として参加し、中心的な役割を担った。

2008年12月には、JICA職員・専門家経験者など「ジェンダーと開発」の実務に関わるメンバーをゲストに共同研究会を開催、研究者と実践者の協働における課題を議論した。

4. 研究成果

本研究が得た成果は、以下の諸点である。

- (1) グローバル化する経済と言説の力を背景に、既存のローカルなジェンダー規範・関係が揺らぎつつ、再編成されている。
- (2) その中では、女性の主体形成の契機が多数生まれていると同時に、グローバル化の中で既存のジェンダー関係と稼ぎ手としての地位を脅かされる男性の反応がローカルな構造再編の重要な鍵となっている。
- (3) 研究者や実践者が、ジェンダー課題に取り組む上では、対象社会を西欧・自民族中心主義的な眼差しで他者化しないためにも、自らの知見を、自己の属する社会のローカルな課題にフィードバックしていくような、インター・ローカルな視点や方法が重要となる。
- (4) グローバル化の中で、ローカルな経済・社会・政治とジェンダーをめぐる課題は、グローバル化への対応において差異をはらみつつも、共通性・相同性を強めている。これらへの対応のためにも、インター・ローカルな共同性やネットワークの構築が大きな課題となる。

(5) こうした状況の中で、地域の「理解」をめざす研究者と、地域のよりよい「変化」をめざす実践者・実務者との間の差異や対立は縮小しており、両者の協働関係が、これまで以上に重要なものになっている。

上述の国際ワークショップの英文の成果報告書は、科研メンバーの共同で編集され、Kumagai et al. (2008)として刊行した。研究代表者・分担者・協力者は、執筆、閲読、編集者として、ほぼ全員がこれに関与した。この報告書は、国内・海外の研究機関に送付し多大な評価を得ている。

このほか、各研究メンバーは、下記に示すとおり、関連業績を多数、個別に発表・執筆し、学界において評価を獲得している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計20件)

- ① 荒木美奈子, プロセスとしての「地域開発」—一定住者と漂泊者の相互作用に着目して, 『科学研究費補助金(基盤研究S)研究成果報告書: 地域研究を基盤としたアフリカ型農村開発に関する総合的研究』, 無, 2009, 383-395
- ② Keiko Ikeda, How women's concerns are shaped in community-based disaster risk management in Bangladesh, *Contemporary South Asia*, 有, 17(1), 2009, 65-78
- ③ 熊谷圭知, 差異を越えて—ローカル・センシティブな「開発とジェンダー」の行方, *F-GENS ジャーナル*, 無, 10, 2008, 34-40
- ④ 石塚道子, クレオール文化空間の脱植民地戦略—マルティニクにおける相反的な空間認識をめぐる—, *文化人類学*, 有, 72-4, 2008, 485-503
- ⑤ 石塚道子, カリブ海地域における小規模農業とジェンダー—「内部市場売買システム」再考—, *F-GENS ジャーナル*, 有, 10, 2008, 192-197
- ⑥ 窪田幸子, 「オーストラリアの長い沈黙」ののち—歴史とアボリジニのエイジェンシー—, *文化人類学*, 有, 73-3, 2008, 400-418
- ⑦ 藤掛洋子, 「農村女性のエンパワーメントとジェンダー構造の変容—パラグアイ生活改善プロジェクトの評価事例より—」, *国際ジェンダー学会誌*, 有, Vol. 6, 2008, 101-132
- ⑧ 藤掛洋子, 「開発援助における語り分析とフェミニスト・エスノグラフィーの可能性—エンパワーメント評価モデルを事例に—」, 『ワールドトレンド』アジア経済研究所, 無, No. 151, 2008, 28-31
- ⑨ 藤掛洋子他, 開発援助研修とジェンダー: PCM研修を事例に, 東京家政学院大

学紀要, 有, 48, 2008, 7-24

- ⑩ Fujikake, Yoko, "Qualitative Evaluation: Evaluating People's Empowerment", *Japan Evaluation Society*, 有, "Vol. 8, no. 2", 2008, 25-37
- ⑪ 小國和子, 開発実践のフィールドワーク～知識が創られるプロセスの共有に向けて, 国際開発研究, 有, 第 17 巻 2 号, 2008, 9-22
- ⑫ Mayumi Murayama and Nobuko Yokota, Re-visiting Labour and Gender Issues in Export Processing Zones: The Cases of South Korea Bangladesh and India", "Discussion Paper, Institute of Developing Economies", 無, 174, 2008, 1-32
- ⑬ 江藤双恵 他, 「国際ワークショップ『ローカルニーズの豊かな世界: 草の根から, 東京家政学院大学紀要, 有, 第 48 号, 2008, 59-70
- ⑭ 倉光ミナ子, 「テラーを通してみるサモア島嶼世界—「語り」を活用した社会科学的地誌の試み—」, アゴラ, 無, 6 号, 2008, 47-68
- ⑮ 石塚道子, カリブ海地域における小規模農業とジェンダー: 『内部市場売買システム』とジェンダー, F-GENS ジャーナル, 有, 10, 2007, 192-197
- ⑯ 中谷文美, わたしの布は誰のもの?—インドネシア伝統染織の<ファッション化>をめぐる, 社会人類学年報, 有, 33, 2007, 1-32
- ⑰ Sachiko Kubota, Planning the Local Museum: Anthropology and Art in the Post-modern Era, People and Culture in Oceania, 有, 23, 2007, 53-72
- ⑱ Fujikake, Yoko, Rural Women's voices Reaching Policy: Examining the Potential of Empowerment Evaluation in central and South America Gender and Development' and the Local Needs: Networking for Gender Equity with Locally-Diverse Gender Needs, The International Society for Gender Studies, 無, 2007, 22-27
- ⑲ 江藤双恵, 「タイの子育てと子ども政策の展開—都市—農村間の比較」, 国立女性教育会館研究ジャーナル, 有, 11, 2007, 33-45
- ⑳ 藤掛洋子, ジェンダーと開発, 地球市民学のすすめ, 6, 2006, 62-76

[学会発表] (計 8 件)

- ① 熊谷圭知, 「グローバル化時代の世界地誌の課題—パプアニューギニアからの視点」, 日本地理学会 地理教育公開講座講演, 2009/3/29, 帝京大学
- ② 中谷文美, 分科会企画・発表: 「趣旨説明—仕事の人類学の拓く地平」 「オランダ社

会における主婦の<仕事>、母の<仕事>」, 日本文化人類学会第 42 回研究大会, 2008/6/1, 京都大学

- ③ 中谷文美, "Work, motherhood, and 'emancipation' in the Netherlands", "the 107th Annual Meeting, American Anthropological Association (アメリカ人類学会)", 2008/11/21, San Francisco
- ④ 荒木美奈子, タンザニアにおける農村研究と開発実践—3. キンディンバ村におけるプロセス・モニタリング, 日本アフリカ学会第 45 回学術大会, 2008/5/24, 龍谷大学
- ⑤ 棚橋訓, 反権力か脱権力化か—再帰的近代化段階における再ジェンダー化, 日本文化人類学会第 42 回研究大会分科会「権力のジェンダー化」, 2008/6/1, 京都大学
- ⑥ 熊谷圭知, 差異を越えて—ローカル・センシティブな開発とジェンダーの行方, お茶の水女子大学 21 世紀 COE プログラム「ジェンダー研究のフロンティア」第 4 回全体シンポジウム, 2007/10/20, お茶の水女子大学
- ⑦ 熊谷圭知・倉光ミナ子, ローカル・センシティブな「開発とジェンダー」は、ジェンダー・センシティブか? (1) —お茶の水女子大学 21 世紀 COE プログラム「ジェンダー研究のフロンティア」における議論から—, 人文地理学会大会, 2007/11/18, 関西学院大学
- ⑧ 倉光ミナ子・熊谷圭知, ローカル・センシティブな「開発とジェンダー」は、ジェンダー・センシティブか? (2) —サモアの女性・コミュニティ・社会開発省の活動を事例として—, 人文地理学会大会, 2007/11/18, 関西学院大学

[図書] (計 23 件)

1. 片山一道・熊谷圭知編, 朝倉書店, 『オセアニア』(世界地理講座第 15 巻), 2009, 印刷中
2. 倉光ミナ子, 明石書店, 「ジェンダーと開発」に対するアカデミックなアプローチとは?—サモア・女性省の活動に関する調査・研究を通して— 滝村卓司・岸上伸啓編『草の根から手を携えて—開発、ジェンダー、NGO と ODA』(仮題) (みんなく実践人類学シリーズ第 8 巻), 2009, 印刷中
3. 中谷文美, 勉誠出版, 『女の仕事にはきりが無い』—バリ女性の働き方 倉沢愛子・吉原直樹編『変わるバリ、変わらないバリ』, 2009, 167-185/312
4. Kumagai, Keichi ほか編, *Beyond the Difference: Repositioning Gender and Development in Asian and the Pacific Context*, F-GENS Publication Series 32, 2008, 243

5. 熊谷圭知, 作品社, 「ジェンダーと開発における男性の位置・再考」 戒能民江編『国家／ファミリーの再構築——人権・私的領域・政策』(ジェンダー研究のフロンティア1), 2008, 281
 6. 石塚道子, 作品社, 「「世帯」のモビリティと集合性—カリブ海地域の世帯集合「ヤード」, 「ラクー」の事例から」伊藤るり、足立真理子編著、『国際移動と〈連鎖するジェンダー〉——再生産領域のグローバル化』(ジェンダー研究のフロンティア2), 2008, 199-223/266
 7. 石塚道子編著, 人文書院, 「地に呪われたる者は起ち上がったのか——マルティニクの植民地解放プロジェクト」編者: 石塚道子、田沼幸子、富山一郎『ポストユートピアの人類学』, 2008, 380
 8. 中谷文美, 世界思想社, 「働くことと生きること——オランダの事例に見る「ワーク・ライフ・バランス」」倉地克直・沢山美果子編『働くこととジェンダー』, 2008, 214-239/320
 9. 藤掛洋子・大迫正弘編著, 東京家政学院大学, 『ジェンダー視点に立ったPCM研修』, 2008, 128
 10. Yoko Fujikake, Shihoko Kuroda, Extracting an Empowerment Evaluation Model: A Paraguayan Case Study and its Honduran Application, Kumagai, Keichi et al eds. *Beyond the Difference: Repositioning Gender and Development in Asian and the Pacific Context*, F-GENS Publication Series 32, 2008, 209-224
 11. Keiko Ikeda, Gender Issues in Disaster Management in Bangladesh: Making Way into Local Development Institutions] Kumagai, Keichi et al eds. *Beyond the Difference: Repositioning Gender and Development in Asian and the Pacific Context*, F-GENS Publication Series 32, 2008, 109-119
 12. Mayumi Murayama, Re-examining 'Difference' and 'Development': A Note on Broadening the Field of Gender and Development In Japan] Kumagai, Keichi et al eds. *Beyond the Difference: Repositioning Gender and Development in Asian and the Pacific Context*, F-GENS Publication Series 32, 2008, 225-227
 13. Minako Kuramitsu, Change and Unchange after the National Machinery's Restructuring?: A Case of Community Development Services in Samoa] Kumagai, Keichi et al eds 『Beyond the Difference: Repositioning Gender and Development in Asian and the Pacific Context』 F-GENS Publication Series 32, 2008, 151-164
 14. 新ヶ江章友・棚橋訓 (編著), お茶の水女子大学 COE ジェンダー, 「男性同性愛者のセクシャリティから「男性」ジェンダーを見る—アジアにおける HIV/AIDS 問題の視点から (F-GENS Publication Series No. 33), 2008, 140
 15. 荒木美奈子, 国際協力 ジャーナル社, 「アフリカを通して国際協力に関わる～研究と実践をつなぐ視点」加納弘勝編『次世代への国際協力レポート 現地と世界をつなぐ私たちの仕事』, 2008, 212
 16. 小國和子, アジア経済研究所, 「農村開発フィールドワークと開発援助」水野正己、佐藤寛編。『開発と農村: 農村開発論再考』, 2008, 278
 17. 松本博之, 明石書店, 「第四世界における贈与交換の展開—トレス海峡諸島先住民社会の内旋的適応」岸上伸啓編著『海洋資源の流通と管理の人類学』(みんなく実践人類学シリーズ3), 2008, 271-299/318
 18. 藤掛洋子, 明石書店, 「グアラニー 先住民民族女性が創り出す二一世紀」『講座世界の先住民民族 ファースト・ピープルズの現在 08』, 2007, 335
 19. 藤掛洋子, 明石書店「グアラニー 先住民民族女性が創り出す二一世紀」綾部恒雄/監修、黒田悦子・木村秀雄編著、『講座世界の先住民民族 ファースト・ピープルズの現在 08』, 2007, 251-268
 20. 窪田幸子, 世界思想社, 「ジェンダー視点と社会問題の交錯——オーストラリア・アボリジニ」『ジェンダー人類学を読む』, 2007, 39
 21. 中谷文美, 世界思想社, 『ジェンダー人類学を読む』, 2007, 392
 22. 中谷文美, 世界思想社, 「バリの〈結婚しながらない女〉たち—増える役割と変わらぬ規範のはざままで」『ミクロ人類学の実践』, 2006, 466
 23. 窪田 幸子, 世界思想社, 「神話と土地をめぐる地域の語りとその変化—オーストラリア・ヨルング女性と先住権原」『ミクロ人類学の実践』, 2006, 466
6. 研究組織
- (1) 研究代表者
熊谷 圭知 (KUMAGAI KEICHI)
お茶の水女子大学・大学院人間文化創成科学研究科・教授
研究者番号: 80153344
 - (2) 研究分担者
石塚 道子 (ISHIZUKA MICHIKO)
お茶の水女子大学・大学院人間文化創成科学研究科・教授

研究者番号：20149553

三浦 徹 (MIURA TORU)

お茶の水女子大学・大学院人間文化創成科学研究科・教授

研究者番号：00199952

棚橋 訓 (TANAHASHI SATOSHI)

お茶の水女子大学・大学院人間文化創成科学研究科・教授

研究者番号：50217098

荒木 美奈子 (ARAKI MINAKO)

お茶の水女子大学・大学院人間文化創成科学研究科・准教授

研究者番号：60303880

(3) 連携研究者

中谷 文美 (NAKATANI AYAMI)

岡山大学・大学院社会文化科学研究科・教授

研究者番号：90288697

窪田 幸子 (KUBOTA SACHIKO)

広島大学・大学院総合科学研究科・准教授

研究者番号：80268507

藤掛 洋子 (FUJIKAKE YOKO)

東京家政学院大学・大学院・准教授

研究者番号：70385128

池田 恵子 (IKEDA KEIKO)

静岡大学・教育学部・准教授

研究者番号：60324323

村山 真弓 (MURAYAMA NAOMI)

日本貿易振興機構アジア経済研究所・地域研究センター・海外研究員・海外調査員

研究者番号：10450454

江藤 双恵 (SAE ETOH)

獨協大学・非常勤講師

研究者番号：50376828

倉光 ミナ子 (KURAMITSU MINAKO)

天理大学・国際文化学部・専任講師

研究者番号：10361817

小國 和子 (OGUNI KAZUKO)

日本福祉大学・国際福祉開発学部・国際福祉開発学科・准教授

研究者番号：20513568

松本 博之 (MATSUMOTO HIROYUKI)

奈良女子大学・文学部・教授

研究者番号：70116979